

## 認証プロバイダー懇談会を終えて

認証の趣旨と今後の期待を含めて

内山 充

去る2月23日(土)に、これまでに認証機構から認証を受けられた生涯研修実施機関(プロバイダー)の責任者や担当者の方々にお集まりいただき、初めての懇談会を虎ノ門パストラルで開催いたしました。

薬剤師の生涯研修の計画や実施方法については、最近の学会(学術大会)でもしばしば報告を見るようになりましたし、国際カンファレンスも1990年以降既に7回開催されていますが、「教育」と違って基本的に受講者の自主的な発想や意欲に左右される「研修」について、いかにして学習効果を高め、薬剤師職能の向上に役立たせるかは、生涯研修の実施機関に共通した重要な課題です。

第1回でしたので、各プロバイダーからこれまでの経験や実績の報告、及び問題点の提起をいただき自由な意見交換を行ないましたが、その席で、当認証機構から、認証の趣旨とプロバイダー活動に対する期待を述べました。そのときの資料を次ページにご紹介いたします。

資料に記しました認証機構の目的・事業はこれまで述べてきたところであり、認証された機関が増えることによって期待される効果についても、設立時から考えは変わっておりません。しかし、認証機構のできることは『認証』迄であって、これらの目的や効果が実現するかどうかの成否は、認証後のそれぞれのプロバイダーのご尽力にかかっております。

プロバイダーの方々の今後の活動の中でお願いしたい考え方について、資料の後半に書かせていただきました。これは、本来は認証を受けているか否かに関わらず、薬剤師の生涯研修を実施しているすべての機関に、留意していただきたい事項でもあります。したがってこの懇談会も、将来は外部の多くの関心ある方々を交えた形に発展することが望ましいと考えております。

今回は参加者から、プロバイダー間の交流、理解および協力の場を作る端緒になったと評価していただきました。今後認証機構は、主催するのではなく後援の立場に立ち、世話人をプロバイダー持ち回りとし、自主的に懇談会(あるいは協議会)を開くことが同意されました。認証されたプロバイダーとしての共通の理念と感覚を生かして、薬剤師に役立ち、喜ばれる生涯研修の発展のためにご尽力いただけるものと期待しております。

## 1 当機構の目的と事業

目的：薬剤師の、生涯にわたる効果的な継続学習の推進により、優れた専門職能を備えた薬剤師を作り、国民医療に貢献すること。

事業：全薬学セクターにより客観的に評価され保証された、質の高い生涯学習提供機関の、全国的な整備を目指して、それに適合する機関を認証し公表すること。

## 2 成否と期待（認証まで）

生涯研修提供機関（プロバイダー）を認証し公表することによって、

わが国における薬剤師生涯研修の質を一定水準以上に保つことにより、薬剤師実務の向上を図ることができ

自己研鑽を目指す薬剤師に対して、受講すべき生涯研修プロバイダーを選択するための、信頼性の高い情報を提供し

生涯研修の履修単位の均質性を保つことにより、受講者の多様な研修実績を統合して記録できる状況を確立し

プロバイダーに対して各種情報をフィードバックし、生涯研修の内容を常に改善し強化する努力を促がす

ことなど、様々な効果をもたらすことができる。

これらを左右する原動力として、認証プロバイダーの活動が大いに期待される。

## 3 プロバイダー活動（認証の後）

養成教育や実務活動に関して法規や制度など環境条件は整えられた。それらの条件の下で、薬剤師がそれぞれ適切な行動が取れるか否かが大切である。

単に従来からの業務の改善や能率の向上、あるいは経験の蓄積に努力するにとどまらず、新しい技術や、時代に即した必要な知識を取り入れて、薬剤師業務に新たな価値を生み出し、経済効果も含めて、広く医療社会に影響を与えるような実務革新の担い手になるための人づくりが、プロバイダーの重要な課題である。

そこで、いわば「生涯研修学」とでもいうべき領域についての研究と実践のため、プロバイダー間の交流と協力が可能となる懇談会(仮)を作れないかと考えている。

薬剤師生涯研修の国際コンファレンスにおいて常に話題となっている課題も含め、認証機構の観点ではなくプロバイダーの観点から、今回に限らず今後の懇談会において、次のような幾つかの意見交換が出来れば幸いである。

プロバイダー活動の目標、あるいは期待する効果をどこに設定するか  
薬剤師の生涯研修への参加意欲を高めるためにはどうすればよいか  
自己診断に基づく、個人レベルでの研修計画はなされているか  
生涯研修をより効果的にするために必要な方策は  
受講生の習得度を評価する効果的な方法は  
地域的な制約なしに研修計画を立てられるような環境条件を作るには  
その他、プロバイダー事業の中で生まれたアイデア、ビジョン等

以上